

2023年夏季ボーナスアンケート調査(宮崎県内) ~インターネットアンケート調査~

当研究所は、宮崎県内における消費動向や生活実感などを探るため、ボーナスアン ケート調査を実施している。今回、県内の給与所得者等を対象にインターネットアン ケートによる夏季ボーナス調査を実施し、結果をまとめた。

【調査結果の概要】

- 1. 夏季ボーナスは、全体の69.8%が「支給される」と回答した。増減見込みは「同 じくらい」「増えそう」が前年より上昇し、「減りそう」が低下した。
- 2. ボーナスの見込み額は「10万円以上30万円未満(45.8%)」が最も多い。
- 3. 使いみちは「貯蓄等(71.0%)」、貯蓄の目的は「老後の生活(41.3%)」、貯蓄の 方法は「定期性預貯金(52.1%)」が最も多かった。
- 4. クレジット・ローン返済は、「自動車(53.1%)」が最も多い。
- 5. ボーナスでの購入予定品は「衣料品(53.4%)」が最も多く、買物予定先は「通販・ ネット販売(48.3%)」がトップだった。
- 6. 最近1年間の県外「九州5市(注1)]での買物頻度では、回数が「1回」、交通 手段では「乗用車」が最も多かった。
- 7. 今後の旅行・レジャーの行き先は、「九州内(除く沖縄)(63.1%)」が最も多い。
- 8. 生活状況は「変わらない(57.9%)」が最多で、D | (注 2) は [▲ 25.3] と前年比 6.6 ポイント(以下「P」)悪化した。
- 9. 品目別の物価状況DI(注3)は「食品(生鮮食品を除く)(+87.9)」が最も高い。
- 10. 投資では「投資している」「興味がある」を合わせた回答が過半数を占め、投資し ている(してみたい) 金融商品は「投資信託(65.6%)」が最も多かった。
- 注1) 福岡市、北九州市、大分市、熊本市、鹿児島市の5市
- 注2) 生活状況が「良くなった」割合-「悪くなった」割合注3) 物価が「高くなった」割合-「安くなった」割合

調査の実施要領

調査時期:2023年5月17日(水)~5月23日(火)

調査対象:宮崎県内の給与所得者等

調査方法:インターネットアンケート(マクロミル社)

回答者数:523名

回答者の属性 (単位:人、%)

年代別	人数	構成比				
20歳代以下	110	21.0				
30歳代	151	28.9				
40歳代	132	25.2				
50歳代以上	130	24.9				
合 計	523	100.0				

Ħ	世帯別	人数	構成比
独身		230	44.0
既婚	子供有り	243	46.5
CV 2E	子供無し	50	9.6
合	計	523	100.0

性別		人数	構成比	
男	性	261	49.9	
女	性	262	50.1	
白	計	523	100.0	

	職業		人数	構成比
	会社	t員	468	89.5
	公剂	务員	55	10.5
]	合	計	523	100.0

※本レポートの図表は、四捨五入の関係で、内訳の総和と合計が必ずしも一致しない

1. ボーナス支給の有無と増減見込み (1)「支給される」が69.8%

夏のボーナスは「支給される」の割合 が 69.8%と、前年比 2.6 P上昇した(図 1)。「支給されない(17.0%)」は同+ 0.4 P、「わからない(13.2%)」は同▲ 3.0 Pとなった。

図1. 夏季ボーナス支給の有無

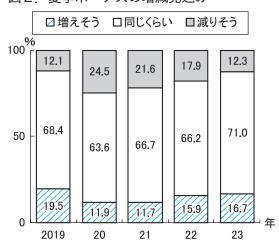


(2) 増減見込みは「同じくらい」が最多

ボーナスの増減見込みは、「同じくら い(71.0%)」「増えそう(16.7%)」「減 りそう(12.3%)」となった(図2)。

2021年以降、「増えそう」は上昇傾向、 「減りそう」は低下傾向が続いている。

図2. 夏季ボーナスの増減見込み



2. ボーナスの見込み額

「10万円~30万円未満」が最多

ボーナスの見込み額は、全体で「10万 円~30万円未満(45.8%)」が最も多く、 「30万円~50万円未満(24.1%)」と続 いた (図3)。

会社員は、「10万円~30万円未満(49.7 %)」が最も多く、前年比 4.2 P上昇した (表 1)。「30万円~50万円未満」「50万 円~70万円未満」「70万円~100万円未 満」の割合は、前年より低下した。

図3. ボーナスの見込み額

■10万円~30万円未満 ☑10万円未満 回30万円~50万円未満 □50万円~70万円未満 □70万円~100万円未満 □100万円以上

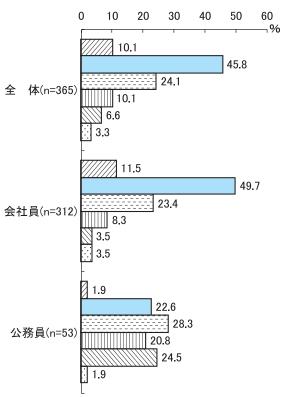


表 1. 会社員の見込み額

0.5

前年比

金額年	10万円 未満	10万円~ 30万円 未満	30万円~ 50万円 未満	50万円~ 70万円 未満	70万円~ 100万円 未満	100万円 以上
2023年	11.5	49.7	23.4	8.3	3.5	3.5
2022年	11.0	45.5	25.2	11.0	4.5	2.9

4.2 ▲ 1.8 ▲ 2.7 ▲ 1.0

(単位:%、P)

0.6

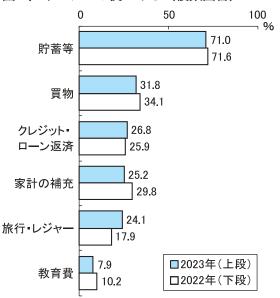
3. ボーナスの使いみち(複数回答)

「貯蓄等」が最多

ボーナスの使いみちは「貯蓄等(71.0%)」が最も多く、「買物(31.8%)」「クレジット・ローン返済(26.8%)」「家計の補充(25.2%)」と続いた(図4)。

前年と比べて「旅行・レジャー(+6.2 P) | の上昇が目立った。

図4. ボーナスの使いみち(複数回答)



(1)「貯蓄」

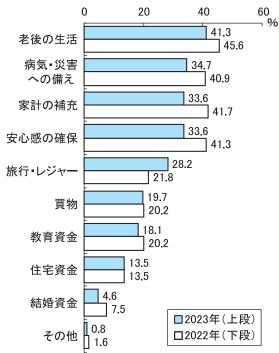
①貯蓄の目的(複数回答)

「老後の生活」が最多

貯蓄の主な目的は「老後の生活(41.3%)」が最も多く、「病気・災害への備え(34.7%)」「家計の補充(33.6%)」「安心感の確保(33.6%)」と続いた(図5)。

前年と比べて順位に変動はないものの、上位4位は前年比それぞれ低下した。5位の「旅行・レジャー」は同6.4 P上昇し、新型コロナウイルス感染症(以下「コロナ」)への警戒感が薄れ、レジャー関連の出費を増やす意向がみられた。





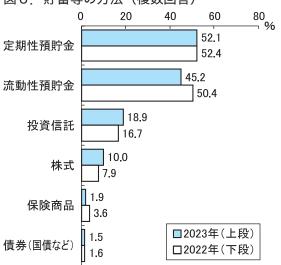
②貯蓄等の方法(複数回答)

「定期性預貯金」が最多

貯蓄等の方法は、「定期性預貯金(52.1%)」「流動性預貯金(45.2%)」「投資信託(18.9%)」「株式(10.0%)」となった(図6)。

「流動性預貯金」は前年比 5.2 P低下 した一方、「投資信託 (+2.2 P)」「株式 (+2.1 P)」は上昇した。

図6. 貯蓄等の方法(複数回答)



(2)「クレジット・ローン返済」

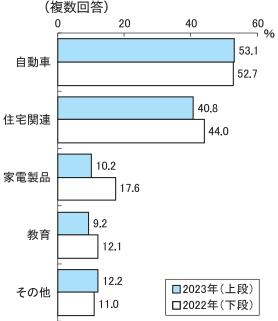
(複数回答)

「自動車」が53.1%

クレジット・ローン返済では「自動車 (53.1%)」が最も多く、次いで「住宅関 連(40.8%)」となった(図7)。

前年比では「家電製品(▲7.4 P)」「住宅関連(▲3.2 P)」「教育(▲2.9 P)」がそれぞれ低下した。

図7. クレジット・ローン返済予定の内容(複数回答)



(3)「買物」

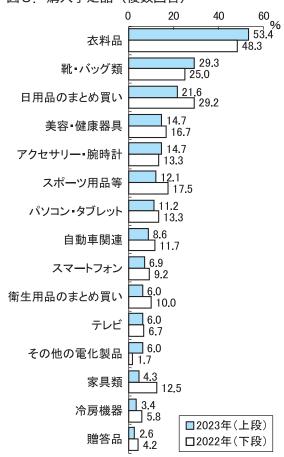
①購入予定品(複数回答)

「衣料品」が最多

購入予定品は「衣料品(53.4%)」「靴・バッグ類(29.3%)」「日用品のまとめ買い(21.6%)」となった(図8)。

前年比では「衣料品(+5.1 P)」「靴・バッグ類(+4.3 P)」「その他の電化製品(+4.3 P)」が上昇し、「家具類(▲8.2 P)」「日用品のまとめ買い(▲7.6 P)」「スポーツ用品等(▲5.4 P)」は低下した。

図8. 購入予定品(複数回答)



※「スポーツ用品等」は「スポーツ・レジャー・アウト ドア用品」の略

※「自動車関連」は、「自動車・バイク・カー用品」の略

②買物予定先の店舗形態(複数回答) 「通販・ネット販売」がトップ

買物予定先の店舗形態では、1 位が「通販・ネット販売(48.3%)」、2 位は「ショッピングセンター(大型店)(以下「SC」)(39.7%)」、3 位が「デパート」「ディスカウントストア」でともに19.8%であった(次頁表 2)。

居住地別では、3市とも「通販・ネット販売」が最も多く、宮崎市は前年比10.0 P上昇した。延岡市は全ての店舗形態で前年を下回っており、「スーパー(前年比▲33.0 P)」と「SC(同▲24.5 P)」の低下が目立った。

表2. 買物予定先の店舗形態(複数回答)

(単位:%)

買物先 居住地	通販・	s c	デパート	ディスカウ ントストア	スーパー
Δ <i>I</i> +	48.3	39.7	19.8	19.8	18.1
全体	47.5	41.7	18.3	17.5	15.0
京藤士	50.0	47.5	20.0	17.5	25.0
宮崎市	40.0	45.7	25.7	5.7	8.6
≠7+d: ±	50.0	22.7	22.7	31.8	18.2
都城市	62.1	31.0	17.2	20.7	6.9
延回士	54.5	31.8	9.1	18.2	4.5
延岡市	56.3	56.3	12.5	37.5	37.5

回答者数 116 人

※上段:2023年 下段:2022年

③買物予定地(複数回答)

「宮崎地区」「都城地区」「延岡地区」は、 地元を買物予定地とする回答が最も多 く、「日南地区」「小林地区」は、「宮崎市」 が最も多かった(表3)。

「県外」は、「宮崎地区」「日南地区」を除く全地区で前年を上回り、コロナが「5類感染症(インフルエンザと同等)」となったことから、移動範囲の拡大がみられる。

表3. 買物予定地(複数回答、居住地別)

(単位・%)

(単位:%						
買物地 居住地	宮崎市	都城市	延岡市	日南市	小林市	県 外
宮崎地区	95.8	-	-	-	-	10.4
舌呵地区	92.3	_	_	_	-	17.9
さままる	27.3	81.8	_	_	_	9.1
都城地区	41.2	85.3	_	_	2.9	8.8
77 121 114 122	21.2	-	54.5	-	_	18.2
延岡地区	39.4	_	54.5	_	-	12.1
ㅁ츄싸ᅜ	71.4	14.3	_	28.6	_	14.3
日南地区	42.9	28.6	_	71.4	_	14.3
17 ++ +P E2	66.7	16.7	_	_	50.0	33.3
小林地区	71.4	28.6	_	_	57.1	14.3

回答者数 116 人

※上段:2023年 下段:2022年

※ 地区名と居住地内訳

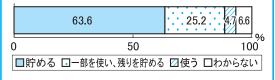
宮崎地区	宮崎市、西都市、東諸県郡、児湯郡
都城地区	都城市、北諸県郡
延岡地区	延岡市、日向市、東臼杵郡、西臼杵郡
日南地区	日南市、串間市
小林地区	小林市、えびの市、西諸県郡

コラム

Q. ボーナスの受給額が増えると したら、増額分はどうしますか?

増額分の使いみちは「貯める(63.6%)」「一部を使い、残りを貯める(25.2%)」となった(図9)。支出の内容では「旅行」「飲食」「買物」「ローン返済」等があった。

図9. 増額分の使い道



4. 最近の県外での買物動向

(1) 買物頻度

最近1年間の、県外九州5市への買物 頻度は、全ての市で「1回」が最も高かっ た(表4)。

表4. 県外での買物頻度 (複数回答) (単位:%)

					,
頻度	福岡市	北九州市	熊本市	大分市	鹿児島市
1 🗔	59.2	65.4	54.2	50.0	48.9
1回	47.7	61.8	57.6	46.0	49.0
2~4回	33.3	21.2	28.2	31.5	35.5
2~4回	35.2	26.5	23.2	35.0	30.6
E O 🗔	2.0	5.8	9.2	9.2	9.2
5~9回	8.0	2.9	9.1	9.0	9.2
10 EUN L	5.4	7.7	8.4	9.2	6.4
10回以上	9.1	8.8	10.1	10.0	11.2

回答者数 147 人

※上段:2023年 下段:2022年

(2) 交通手段

県外九州5市への交通手段は全ての市で「乗用車」が最も多く、「熊本市」「大分市」「鹿児島市」では乗用車の回答率が約9割を占めた。(次頁表5)。北九州市は前年と比べて「乗用車(+20.0 P)」、福岡市は「高速バス(+4.1 P)」が上昇した。

表5. 県外九州5市への交通手段 (単位:%)

交通手段	福岡市	北九州市	熊本市	大分市	鹿児島市
乗用車	66.7	78.8	90.8	91.5	89.4
米州半	67.0	58.8	89.9	91.0	89.8
高速バス	14.3	5.8	5.3	_	2.8
同坯ハヘ	10.2	14.7	4.0	_	2.0
J R	4.8	11.5	2.3	6.2	5.7
J K	5.7	14.7	5.1	7.0	7.1
飛行機	11.6	-	_	_	_
水 1〕 放	13.6	_	_	_	_
B & S	1.4	1.9	_	-	-
(※)	2.3	5.9	_	_	_

回答者数 147 人

※上段:2023年 下段:2022年

今後の旅行・レジャーの行先 (複数回答)

「九州内」が最多

今後の旅行・レジャーの行先は、「九州内(除く沖縄)(63.1%)」と最も多く、「県内」「関東・甲信越」がともに 24.4%となった。

コロナ禍前の調査(2019年夏季ボーナスアンケート)では、1位「九州内(除く沖縄)(73.4%)」2位「関東・甲信越(33.1%)」3位「県内(28.6%)」であった。今回の結果は旅行・レジャーの行先がコロナ禍前に近づきつつある様子がうかがえた(図10)。

全国旅行支援(注4)の利用状況は、「すでに利用した(13.6%)」「利用できる旅行の予約をした(2.9%)」「利用できる旅行を検討している(6.7%)」「利用を検討したい(19.1%)」など利用に"前向き"な回答が全体の約4割を占めた一方「利用の予定はない(57.7%)」も多かった(図11)。

注4) 国の支援を受けて、各都道府県が実施している旅行割引キャンペーンのこと。宿泊料金の割引支援があるほか宿泊数、平日/休日に応じたクーポン券も受けられる。期間は、2023年1月10日~6月30日、ゴールデンウィークを除く

図 10. 今後の旅行・レジャーの行先(複数回答)

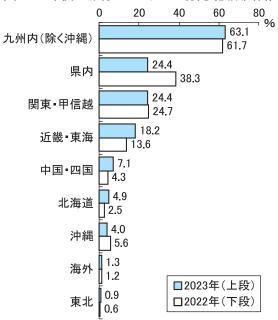
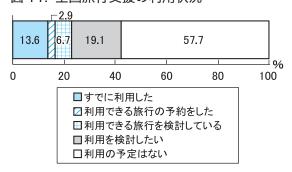


図 11. 全国旅行支援の利用状況



6. 現在の生活状況

全体では「変わらない」が57.9%

現在の生活状況は、全体では「変わらない(57.9%)」が最も多く、「悪くなった」は33.7%、「良くなった」が8.4%で、生活状況DIは▲25.3となった(次頁表6、図12)。

前年比では、「全体」のDIが 6.6 P 悪化した。項目別では、「レジャー・余 暇等」を除くすべての項目で前年より悪

^{※「}B&Sみやざき」の略称。Bus & Shinkansen の頭文字で、 博多駅〜新八代駅(熊本)〜宮崎駅間を新幹線と高速バ スで運行する

化しており、物価高などの影響が考えられる。

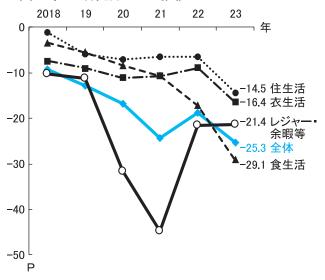
表6. 現在の生活状況

(単位:%、P)

公 0 . り 1 エ 7 I 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1						
生活状況	良くなった	変わらない	悪くなった	DΙ		
全体	8.4	57.9	33.7	▲ 25.3		
全 体	9.4	62.6	28.1	▲ 18.7		
太上汪	5.4	72.8	21.8	▲ 16.4		
衣生活	7.1	76.9	16.0	▲ 8.9		
食生活	6.3	58.3	35.4	▲ 29.1		
及王冶	8.8	65.3	26.0	▲ 17.2		
住生活	6.3	72.8	20.8	▲ 14.5		
王 冶	7.8	77.9	14.3	▲ 6.5		
レジャー・	8.4	61.8	29.8	▲ 21.4		
余暇等	7.8	62.8	29.4	▲ 21.6		

※上段:2023年 下段:2022年

図 12. 生活状況DIの推移



7. 現在の物価状況

現在と前年の物価を品目別に比較した 状況は、全ての品目でDIがプラスとなり、 物価高を実感する結果となった(表 7)。

品目別では「食品(生鮮食品を除く) (+87.9)」が最も高く、「光熱水道費(+79.6)」「日用品(+71.5)」と続いた。 前年比では「外食費(+29.1 P)」「家具・ 家事用品(+22.9 P)」「嗜好品(酒等)(+22.2 P)」等の上昇が目立った。

表 7. 品目別物価状況

(単位:%、P)

物価	局く 云赤 安く		<u> </u>	DI	
			安く なった	_	_
品目	'& JIL		<i>'</i> & <i>J</i> /_	今回	前年
食品(生鮮食品を除く)	88.5	10.9	0.6	87.9	79.0
光熱水道費	81.0	17.6	1.4	79.6	65.1
日用品	73.9	23.8	2.4	71.5	50.0
耐久消費財	68.4	30.4	1.1	67.3	51.3
交通費	64.6	32.9	2.5	62.1	58.7
嗜好品(酒等)	61.8	35.0	3.2	58.6	36.4
外食費	62.1	32.9	4.9	57.2	28.1
家具・家事用品	55.0	41.2	3.9	51.1	28.2
娯楽・趣味	49.2	44.5	6.3	42.9	21.0
被服・履物	46.0	50.3	3.7	42.3	22.0
教育費	39.2	55.0	5.8	33.4	25.5
通信費	38.0	55.4	6.6	31.4	19.6
医療費	34.7	61.9	3.4	31.3	23.6
保険料	32.0	63.1	4.9	27.1	22.0
住居費	23.2	74.3	2.5	20.7	15.9

8. 今後の投資の意向

国は貯蓄から投資へシフトする「資産倍増計画」を示し、投資に関する「NISA(注5)」「つみたてNISA(注6)」「ジュニアNISA(注7)」等の非課税制度が整備されている。また、老後の資産形成として個人型確定拠出年金「iDeCo(注8)」等もある。

- 注5)「NISA 口座(非課税口座)」内で、毎年一定 金額の範囲内で購入した金融商品の利益が 非課税
- 注6) 積立投資用で、累積投資契約に基づく買付け(年間40万円まで)を行い、非課税期間は20年間
- 注7) 未成年者対象の少額投資非課税制度で非課税投資枠は年間80万円。2024年以降は、「継続管理勘定」に変わり、非課税での保有や売却はできるが、新規の買い付けはできなくなる。口座開設者が18歳になるとNISAに移行する
- 注8) 自分で申込み、掛金を拠出し、運用方法を 選んで運用する。掛金とその運用益との合 計額を給付として受取る

今後の投資の意向では、「投資の経験があり、現在も投資している(28.5%)」「投資の経験はないが、興味はある(27.2%)」を合わせた回答が全体の過半数を占めた(図13)。投資している(してみたい)金融商品では「投資信託(65.6%)」が最も多く、「株式(48.3%)」「個人年金保険(15.5%)(注9)」となった(図14)。

注9) 個人年金保険は私的年金制度であるiDeCo と違い、保険会社に支払った保険料を、老 後に年金形式で受け取る保険商品のこと

図 13. 今後の投資の意向

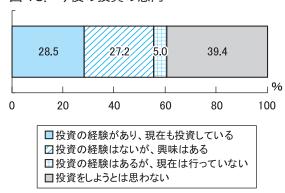


図 14. 投資している(してみたい) 金融商品(複数回答)



9. まとめ

今回の調査は、前年並みのボーナス支 給額を見込む回答が多く、使いみちは、 老後の生活のために貯蓄する回答が多 かった。

旅行・レジャーはボーナスの使いみち、 貯蓄の目的とも前年比上昇した。今後の 旅行・レジャー先では、遠方を目的地と する回答率の上昇が目立つ一方、「県内」 は前年より低下した。

買物も「衣料品」「靴・バッグ類」等が 前年比上昇し、コロナの5類移行に伴う 外出機会の増加が見込まれる結果となっ た。

買物先は「通販・ネット販売」が依然 として多く、「ディスカウントストア」 「スーパー」の回答率も前年より上昇す るなど低価格志向のうごきがみられた。 買物予定地では、地元志向が強いものの、 県外を買物先とする回答も増える傾向に ある。

物価状況DIは「食品(生鮮食品を除く)」「光熱水道費」「日用品」など普段 使いの商品やサービス価格の上昇を実感 する結果となった。

生活状況DIは「レジャー・余暇」を除く全ての項目で前年より悪化した。生活面では、コロナ禍から正常化に向かいつつあるが、物価高による支出の増加が暗い影を落としている。今後とも、物価の上昇傾向が予想され、生活防衛型の消費が続くと考えられる。 (勝池)